

日本野鳥の会
ウトナイ湖サンクチュアリ
2022年度 活動報告

Annual Report 2022

Lake Utonai Sanctuary



ウトナイ湖そして勇払原野を守る

南側から望むウトナイ湖サンクチュアリの全景

- ウトナイ湖サンクチュアリの維持管理
- より多くの方に伝えるために
- 勇払原野を守るために
- 数字で見る2022年度
- 皆さまに支えられて



ウトナイ湖サンクチュアリの維持管理

1981年5月に開設したウトナイ湖サンクチュアリの自然環境は、開設当初から見ると湿原が林へと遷移するなど年々変化しており、また42年目を迎えるネイチャーセンターは、老朽化のため補修が必要な箇所も出てきています。今年度は、定期的に行っている調査や、日々の巡回、そして観察路やネイチャーセンター等施設の維持管理を実施しました。



ネイチャーセンター正面

|| ネイチャーセンターの修繕 ||

11月には、ネイチャーセンターの外壁の塗装を行ないました。ネイチャーセンターの木製の外壁は、2005年に苫小牧ハスカップライオンズクラブの皆さんに張り替えていただきましたが、それから17年が経過したこともあり、塗装が剥がれて腐食も進んでいます。今年度には日本野鳥の会苫小牧支部だけでなく来館された方々にも協力していただき、正面玄関や湖に面した外壁にペンキを塗ることができました。まだ塗装できていない外壁もあり、また朽ちてしまっている部分もあるので、次年度以降も補修や塗装を続ける予定です。



力をあわせて外壁にペンキを塗る

|| 安心して歩ける観察路づくり ||

ネイチャーセンター周辺および野生鳥獣保護センターまでの間には、観察路が整備されています。毎年、観察路が伸びた草木に覆われるほか、林内では枯死木もあることから、来訪者が安全に散策できるようにするために適切な環境管理が必要になります。今年度には、4月と6月にボランティアサークル「ゆのみ」の皆さんに観察路沿いのゴミ拾いや草刈りをしていただいたほか、6月と9月に勇建設株式会社の皆さんに観察路の草刈りをしていただきました。また当会職員も、適宜状況を見つつ、観察路の草刈りや風倒木の処理を実施し、観察路の維持に努めました。



センター周辺や観察路の支障となる草木を整理する



|| 看板を設置してご案内 ||

これまで、国道からネイチャーセンターまでの市道には案内看板が少なく、宅地から林内へ進むにつれて舗装道路から砂利道へと変わることから、来訪者が不安になる状況がありました。そのため、5月には苫小牧ハスカップライオンズクラブの皆さんに、ネイチャーセンターへの大きな案内看板を設置していただき、3月には道路脇に駐車場まで誘導する小看板を当会で設置しました。一方で、往来の多い国道上の案内看板が無いことから、より多くの方に訪れていただけるように次年度以降に順次設置していく予定です。



国道からのアプローチとなる市道に看板を設置していただいた

|| 自然を守るための 巡視や調査、環境管理 ||

国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定されているウトナイ湖では、当会の職員が鳥獣保護区の管理員になっていることから、観察路や湖の巡視、調査業務等を行なっています。今年度には、鳥獣保護区内の巡視のほか、水鳥の個体数調査や鳥インフルエンザ対策のための特別巡視を、のべ40日間実施しました。また、環境省のモニタリングサイト1000鳥類調査や、10年に1度のウトナイ湖植生調査に協力しました。そのほか、ウトナイ湖畔に侵入している外来植物対策としてオオアワダチソウの抜き取りを実施してきましたが、今年度は、しこつ湖自然体験クラブ*トウレップ、ヨコハマタイヤリッド株式会社、一般社団法人日本旅行業協会、アイシン北海道株式会社の皆さんに協力していただいて作業を行なうことができました。



市民の方にも参加していただいたウトナイ湖植生調査



南東部湿原で実施したモニタリングサイト1000の調査



抜き取った外来植物とヨコハマタイヤリッド株式会社の皆さん



より多くの方に伝えるために

ウトナイ湖をはじめ勇払原野の自然の豊かさを伝えるため、ネイチャーセンターの展示や講演、行事、団体対応などを実施しています。今年度は、ネイチャーセンター内に、勇払原野の自然の紹介のほか、勇払原野を利用して繁殖しているタンチョウやチュウヒ、オオジシギなど絶滅危惧種の保護活動を紹介する展示を行ないました。また、日本野鳥の会苫小牧支部との共催で「秋のガン観察会」を開催し、ガン類の重要な中継地であるウトナイ湖の重要性について、28人の参加者へお伝えすることができました。そして団体対応では、苫小牧市内の小学校や日本野鳥の会の支部、観光のツアーなど25団体1,378人の対応を行ない、ウトナイ湖や勇払原野の自然環境についてお伝えすることができました。



「秋のガン観察会」では、ガン類のめぐら入りをご覧いただいた



ツアーの団体にウトナイ湖での活動を紹介



自然情報だけでなく、当会の保護事業についての展示を充実させた

|| 地域の子どもたちを育てる ||

団体対応のうち、苫小牧市内の小中学校では、苫小牧市の委託事業「自然ふれあい教室」を利用されるケースもあります。今年度は1,044人の子どもたちに自然と親しんでもらうとともに、地域の自然について考える機会を提供しました。



子どもたちに自然と親しむ方法を伝える



ゆう ふつ

勇払原野を守るために

弁天沼

ラムサール条約湿地のウトナイ湖を有し、約36,000haの湿原や草原、森林で構成される勇払原野には、当会の保護対象種でもあるチュウヒやタンチョウ、オオジシギなどの絶滅危惧種が繁殖できる自然環境が残されています。しかし再生可能エネルギーの導入が進むなか、大規模な太陽光発電所や風力発電所の建設、また企業活動による工場の建設など、勇払原野周辺の自然環境は日々開発の危機に晒されています。一方、勇払原野南部の弁天沼周辺は、北海道により河道内調整地として工業地帯から切り離されたため、保全に向けた歩みが始まったところです。当会では、勇払原野を利用する絶滅危惧種の生息地保全をめざすことで、勇払原野を利用する多くの動植物を守ることができることから、ウトナイ湖の源流である美々川流域から、太平洋に至る弁天沼や安平川周辺の自然環境の保全活動を行なっています。



苫小牧市の工業地帯に残る勇払原野

野鳥の利用状況の把握

2022年度には、上記にある希少な野鳥の生息情報を収集するために、25回の現地巡回や調査を行ないました。その結果、絶滅危惧種9種を含む62種の野鳥を確認することができています。早朝から広大な原野を巡る地道な調査ですが、毎年継続して実施することで、留鳥から渡り鳥まで多くの野鳥が勇払原野を利用していることを把握できます。

行政や関係者との調整

現在、北海道により弁天沼周辺の河道内調整地の築堤工事が行なわれています。工事を行なう際には、希少な鳥類などへの影響が考えられることから特に繁殖期には注意を要します。事前に北海道や事業者との協議や調整を行ない、影響を低減できるように協力しています。

勇払原野を知ってもらう

勇払原野の自然の豊かさや保全する意義について、より多くの方に知っていただくため、北海道博物館主催の「あっちこっち湿地展」での講演を行なったほか、関係団体主催の「浜厚真生き物ブース」への出展協力を行ないました。また、ネイチャーセンターでは、チュウヒの生態や個体数などの現状、そして保護策について紹介するタペストリーを作成して展示を始めました。



残された湿原の上を飛ぶチュウヒ



チュウヒのタペストリー



数字で見る2022年度

■ ネイチャーセンターの実績

利用状況	利用者(来館者)数 (団体、CSR、ボランティア、行事利用含む)	6,004人(うち開館日数115日の一般来館者数4,505人)
	団体対応(CSR含む)	31件 1,471人(うち団体25件 1,378人 CSR6件 93人)
保護・保全	鳥インフルエンザ対策の監視巡回	40回
	タンチョウ動向調査	2回
	開発問題対応	5回
	ワシ類カウント調査	1回
	勇払原野鳥類調査および巡回	18回
	日別出現鳥類記録調査	244日
	観察資源調査(自然情報マップ発行)	13回
	環境管理	3回(のべ50人)
普及教育	観察会等	1件 28人
	CSR対応	6件 93人
	ボランティア活動	39回 85人
	出前講座	2件
広報	ホームページ更新	244回
	ブログ更新	64回
	『野鳥』誌掲載記事	5回
	雑誌・新聞等掲載	45件
支援等	ウトナイ湖ファンクラブ	個人90人(団体1 法人6)
	ファンクラブ通信発行	2回
その他	委員会	4回
	取材対応	15件

■ ウトナイ湖野生鳥獣保護センターの実績 (苫小牧市からの受託)

自然観察 指導業務	団体来館者への対応	18団体 953人
	自然観察会の実施	3回 1,043人
	渡り鳥フェスティバル	1回 210人
展示教材作成業務	ショートプログラムの実施	15回 285人
	自然情報収集及び掲示	12回
ボランティア 育成業務	講演・研修会の実施	6回 54人
	ボランティアコーディネート	76回
鳥類調査	全域水鳥カウント調査	12回
	ガン類個体数変動調査	7回
	ハクチョウ類生息調査	通年
	ウトナイ湖周辺鳥類調査	1コース 5回
広報情報発信	通信紙の作成(ウトナイ湖通信)	12回
	SNSへの情報提供	96回



ショートプログラムのお気軽ガイドウォークが好評

■ CSRやボランティア活動で来られた皆さま

企業CSR — 合計93人

- アイシン北海道株式会社(21人)
- 勇建設株式会社(2回のべ42人)
- ヨコハマタイヤリッド株式会社(3回のべ30人)

ボランティア団体 — 合計33人

- ボランティアサークル「ゆのみ」(2回のべ13人)
- 苫小牧ハスカップライオンズクラブ(13人)
- しこつ湖自然体験クラブ *トウレップ(7人)



アイシン北海道株式会社



一般社団法人 日本旅行業協会北海道事務局



■ 来館者数の推移

2022年度は、新型コロナウイルスによる臨時休館があった2019年度から2021年度に比べて一般来館者数が増え、コロナ禍前の2018年度と同程度まで回復傾向がみられました(図1)。

また、開館1日あたりの一般来館者数を月別に2018年度、2021年度と比較すると、春季および秋季の来館者数はコロナ禍前より増加しているものの、夏季や冬季の来館者数は未だ少ない状況でした(図2)。

来館者の地域別の割合を見てみると、人流が戻りつつあり道外からの来館者が増えていることも分かります(図3)。

より多くの方にウトナイ湖の自然や当会の活動について知っていただくためにも、展示の更新やイベント等の開催により、より魅力あるネイチャーセンターにしていきたいと考えています。

図1 一般来館者合計人数

※一般来館者数：来館者数から関係者やボランティアの人数を引いた人数(人)

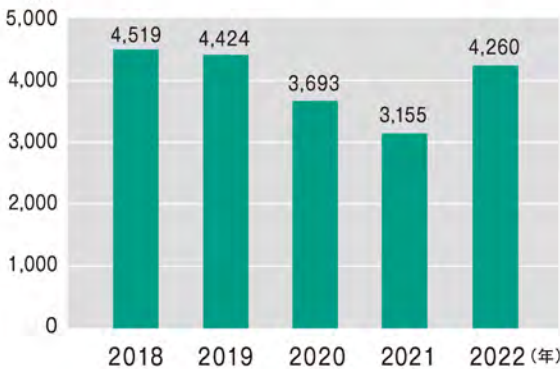


図2 開館1日あたりの一般来館者数
2018, 2021, 2022年度の比較

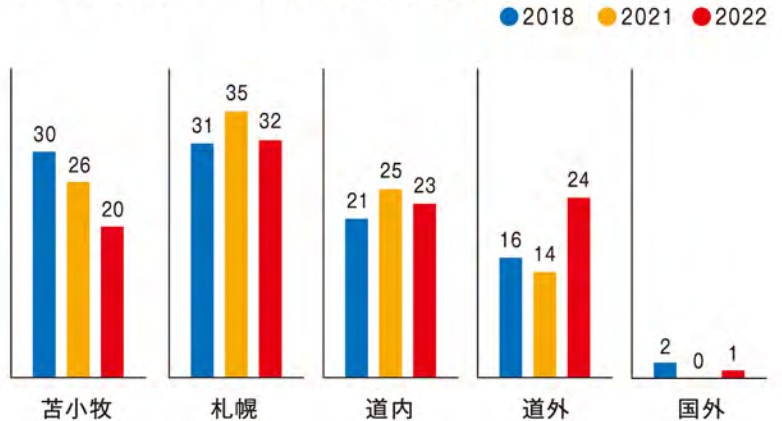


※参考データ

開館1日あたりの一般来館者数(緊急事態宣言前後の比較)(人) 月別

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018	43	48	41	32	32	22	37	57	26	40	35	58	39
2021	27	44	28	22	29	0	51	33	23	30	25	27	31
2022	50	38	40	20	29	29	46	41	22	29	37	61	37

図3 地域別個人来館者数の割合(%) 2018~2022年度





皆さまに 支えられて

ウトナイ湖ネイチャーセンターの活動は、皆さまのご支援に支えられています。今年度は、ウトナイ湖ファンクラブの会員として個人90名、法人7社の皆さまから会費でのご支援をいただきました。また、「株式会社もりもと」のほか「MS&ADホールディングス」からご寄付をいただきました。さらに、ネイチャーセンターの8名のサポーターの皆さまには来館者対応や調査の補助をしていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

なお、ファンクラブの会費やご寄付は、ウトナイ湖や勇払原野の調査のほか、ネイチャーセンターの展示や施設管理、観察路の維持等に活用させていただきます。

ウトナイ湖ファンクラブ

ウトナイ湖を含む勇払原野の野鳥や自然環境を末永く守るためには、調査や巡回などで現地を把握し、その情報をもとに適正な管理を行ない、そして守ることの重要性を多くの方に伝える必要があります。これらの活動には多くの費用がかかることから、当会では賛助会の「ウトナイ湖ファンクラブ」を設立しました。皆さまの会費は、全額をウトナイ湖サンクチュアリの活動費へと充てさせていただきます。

会費

個人会員：1口 10,000 円／年
法人会員：1口 50,000 円／年

ファンクラブの皆さまのネームプレートをネイチャーセンターに掲示し、活動や自然情報を紹介した通信紙を定期的にお送りいたします。



皆さまのご支援をもとに設置した案内ボード



申込方法など詳細は、WEBページをご覧ください。

SNSを開設しました

ウトナイ湖の自然の状況や、当会が勇払原野で行なっている保護活動について、より早くより多くの方にお伝えするため、公式SNSを開設しました。これまでのWEBサイトでの情報に加えて、現地のスタッフが生の情報をお伝えしますので、ぜひご覧ください。



<https://www.facebook.com/UtonaiNatureCenter>

Facebook



https://www.instagram.com/utonai_nc/

Instagram



https://twitter.com/utonai_NC

Twitter

ウトナイ湖サンクチュアリについて

日本野鳥の会は1970年代後半に、自然保護や環境教育の拠点となる「サンクチュアリ」をつくらうという運動を開始しました。この運動により1981年には、全国から寄せられた約1億円の募金をもとにして、北海道苫小牧市のウトナイ湖に国内第1号のサンクチュアリ「ウトナイ湖サンクチュアリ」を開設しました。そして、湖畔には「ネイチャーセンター」を開館し、専属職員「レンジャー」を配置して市民をはじめ多くの方に自然体験や学びの場を提供しています。

サンクチュアリの開設から40年以上が経過し、その間にラムサール条約湿地への登録や千歳川放水路計画の中止など、大きな成果を残すことができました。近年では2000年から2006年にかけて策定した「ウトナイ湖・勇払原野保全プロジェクト」の保全構想に基づき、絶滅のおそれがあるチュウヒやタンチョウ、オオジシギなどが生息する、野鳥の重要生息地(IBA)であるウトナイ湖と、その一帯を有する勇払原野の豊かな自然環境保全にも取り組んでいます。

公益財団法人 日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ

ネイチャーセンター

開館：土日祝日 9:30~16:30 ※平日は休館

〒059-1365 北海道苫小牧市植苗150-3

☎ 0144-58-2505 ㊚ 0144-58-2521

✉ utonai@wbsj.org

詳しくは

検索

URL：<https://wbsj.org/sanctuary/utonai/>
Facebook、Instagram、Twitterも開設しました。

